

豊嶋：俺は甘いものに対しては結構アクティブになれる。美味しいものっていうワードだけだと腰が重いな。

山口：アクティブな人すごいと思う。

豊嶋：まあ結局、その日の最後に楽しかったなって思うんだよ。思うんだけど、もっとね。

山口：私、漫画も好きだわ、TSUTAYAの花小金井店常連だよ(笑)

——じゃあ主将に合いたければ花小金井店に行けば会えるということ(笑)

——次に真面目な話に戻るんですけど、スローガンに込めた思いについて、二人から聞きたいです。

山口：まず、英語にするか迷って。でも去年のスローガンの「強争心」ってスローガンがかっこよくてめっちゃいいなって話になって、漢字にしようって。この部に合うものをいろいろ調べて「完遂」に至った。

私たちって私大みたいに高い目標に全員が向かっているわけではなくて、各々自分たちで考えて活動する部活だと思う。個人個人が掲げることができて、各々がやり遂げることができるようになりたいという願いを込めた。

豊嶋：まあ、その、そういうこと。みんなそれぞれ思うようにできたらいいなっていうのが僕たちのスタンスにあって、それを表現するのにいい言葉だと思う。こうするぞって高い目標を掲げてもそれを達成できない人のほうが多いと思う。達成できなかったとしても、頑張ってきた自分を否定してほしくなくて、その過程を大事にしたいと思う。頑張った過程を褒めてあげてほしいっていうのも「完遂」って言葉に当てはまっているなと思った。

——それは二人だけで話し合っただけですか？

豊嶋：電話しました。二人でZOOMしました。

山口：目標に向かうっていうのもあるけど、冬季の練習や課題、シーズインの課題をそれぞれやりきるっていうことにも当てはまるなって思う。だから結構気に入ってる！

豊嶋：たぶん、これ来年になって初めてわかるんだろうけど、かっこいいなって改めて思うんだろうなって思う。

——スローガンについていろいろ聞けたところで、男子女子それぞれで目標を立てたと思うのですが、その目標の設定理由と、それについてどう考えるかについて聞かせてほしいです。

豊嶋：男子の目標としては「45点獲得の位入賞」なんだけど、なんで45点なのかっていうと、それぞれのブロック長に目標を聞いて、合計していったら50点を越えていたから。かなり高い目標を立てていたので、それを達成するのが理想だけど、少しだけ低く見積もって45点という目標を立てた。また、今年の関カレを見て50位のボーダーが50点だと思うけど、年によっては食い込めるかなと。女子も50位入賞だったよね？

で、当初は一部残留というのが大きな目標になるのが妥当かなと思ってたし、一部に上がりたての大学が上位に食い込めるのかと疑問に思っていたけど、自分が想像していた以上に各ブロックの目標が高くて。さすがにこの流れで一部残留なんて弱音を吐いてはだめだなと思って、僕らならまだ上を目指せるなと思って、この目標にしました。

山口：男子冬季練習すごい頑張ってるじゃん。私も一部残留かと思ってた。正直高い目標を持ってきたなと思ってる。だけど、繁田監督がいけるって言うってくれたから、そこが勇気になったし、ブロック長も目標を掲げた責任を持って頑張っている。男子の冬季練習の様子を見てると、本気で頑張っているんだな